

「原発ゼロ！」の一点で2,700人が集う

「地域・職場・学園でネットワークづくり」を確認

各界16氏が呼びかけた「原発ゼロ!にいがた県民大集会」は天候に恵まれ、全県から2,700人が参加。昨年の3・11以降、県内で初めての大規模な集会として成功しました。

集会では、「地域、職場、学園、県内津々浦々で、原発に不安と関心をもつ多くの個人・グループが対話・交流し、新しいネットワークをつくり、創意工夫をこらした多様な行動で、全国的なとりくみと連帯し、『柏崎刈羽原発の廃炉』『原発ゼロの日本』を実現しよう」とのアピールを採択しました。



柏崎市・高橋優一さん

柏崎刈羽原発から約9kmに住む高橋優一さんは、「不安ではあるけれどやむを得ないと思っていたが、3・11で認識は一変した。廃炉を強く求める」と訴えました。



新潟県スポーツ公園（ピックスワンスタジアム）から新潟駅南・弁天橋手前までパレード



写真右：馬場町長と菅野さん（左）、高島さん

国民は放射能の危険に気がつき、政府や原子力村のウソを知りました。もう隠せないところまでできています。あきらめないで、一步一步前進しましょう。子どもたちのために、未来のために。

浪江町民は、福島県内に1万4千人がバラバラに、7千人が45都道府県に避難しています。震災関連で140人が亡くなり、要介護になる方は通常の3倍です。異常です。東京電力は責任はとらない、ウソはつく、絶対許せません。「原発ゼロ」にむかって、みなさんといっしょにたたかっていきます。

浪江町の馬場町長の来賓あいさつ、郡山市の菅野さん、高島さんのトークに大きな感動



「廃炉を決断こそ柏崎の雇用対策も…」
五十嵐修さんが基調報告

基調報告に立った五十嵐修さんは、「原発ゼロ・廃炉の決断をしてこそ、再生可能エネルギーの拡大も柏崎・刈羽の地域経済や雇用問題にも本腰がはいる」と、政治的決断の重要性を強調しました。

募金は65万6476円 ありがとうございます。 ございました。



「東京電力に運転の資格・能力なし」
関根征士さんが開会あいさつ

「過酷事故を『人災』であるとして認めず、何一つの教訓も汲み取らない」東京電力には、「原発を運転する資格もなければ、能力もない」。「野田政権に対して、原発エネルギーから自然エネルギーに大転換せよと声を大にして要求しよう」と呼びかけました。

原発はいらない!子どものため、未来のため、地球のため!
7・8「原発ゼロ!にいがた県民大集会」

実行委員会ニュースNo.6 発行：実行委員会事務局 千新潟市中央区医学町通り1・45 第2 関本ビル2F TEL025-225-0322 FAX025-225-5260
2012年7月14日